

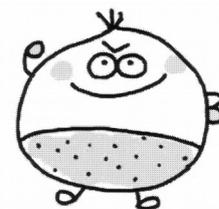
# HDM推進会（第 53回）／ごみゼロネット推進会（第 75回）議事録

開催日： 2014 年（H26 年）8 月 20 日（水）10:00 ～ 12:00

場 所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 大橋、加藤、平林、杉本、川村、山本、林、桐生（作成）

議 題：



## 1. 資料「ごみ生ごみの動き」（加藤氏作成 2014/8/20 付け）についての議論

「三市ごみ減量等懇談会」「三市共同化問題」「小金井市ごみ処理基本計画関係」の 3 項目あるが、特に最後のテーマに問題が多い。以下に列記する。

- 「平成 25 年度ごみ処理量及び資源回収量」では「可燃系ごみ」は 12,745t と明示している。ところが三市共同処理焼却施設の計画には、小金井市は 14,500t と 2,000t も増えている。現在自己責任で事業者が処理している可燃系ごみを小金井市が引き取って、共同処理施設に送るという信じ難い計画である。①自治体は住民のごみ処理には責任があるが、事業者のごみ処理には責任ないはず、②他市が現状より減らす計画なのに、小金井市は増やす計画とは何故か。その裏事情は公開すべきでないか。
- 先般、小金井市は 3,000 名の市民に対してごみ処理に関するアンケートを行い、1,200 通の回答を得ている。10 年前にも同じ事をやっており、その時は「貴方は生ごみの分別収集に協力するか」との質問に対し、約 73 %の「協力する」との回答を得ている。今回もし同じ質問があれば 90 %以上の賛成が得られる筈だが、日頃「生ごみ分別収集は市民に負担を掛けるのでやりたくない」と述べている現市長の意を体して、その種の質問を設けていない。同じ質問を繰り返してこそ市民の意識の変化が数量的に把握できるのに、このような恣意的な運営を行うことが許されて良いのか。
- 基本計画の答申を 12 月にやるのに、パブリックコメントを 12 月にやる日程である。市民の意見を基本計画に入れる気持ちが始めからない暴挙である。そのパブリックコメントも 5 回で終える計画で、このような拙速のスケジュールは全国でも見られない。始めから市民の意見など聞くつもりは全くないようだ。

## 2. 三市市民ごみ問題協議会で各市の市民から出た意見に注目する討議

- (1) ごみ発生量は全国的にドンドン減っている。
- (2) 多摩全域を考えると焼却炉は能力の半分しか稼働していない。国が補助金を出して推進し、自然エネルギーとして推奨されているごみ焼却発電は事実上稼働していない。ごみ発電をやるために建設費が倍にもなっている。発電電力量の実績を公開して、国の方針に異議を唱えるべきだ。
- (3) 西多摩衛生組合は青梅市がごみ処理有料化してからガクンと処理量が減って、ピンチに立たされている。
- (4) 小金井市のごみ騒動を取材したマスコミは、「既に焼却場間でごみの奪い合いが始まっている」と本当は不要な焼却炉建設に警告を発している。
- (5) 焼却場付近の住民は猛烈な反対運動をするが、自治体は本音ではごみが欲しい。
- (6) 多摩地区の焼却場だけでも能力と負荷の実態を調べ上げて、焼却場の新設計画は必要なのか原点に戻って検討すべきである。

## 3. その他の提言

- 家庭では台所では生ごみは分別されているのに、市のルールで「燃やすごみ袋」に塵籠の紙系ごみと合体させて出させている。「生ごみ専用袋」を設ければ分別収集できるのでないか。
- 小金井市は「生ごみの分別収集は市民に迷惑を掛けるからやらない」と頑なな態度を崩さない。「ストアに専用袋を置く場所が得られない」と言い訳する。
- 橋詰氏主催の生ごみの会では、ごみ対策課長は満座の中で「分別収集は絶対にやりません」と言い放った。これでこの会は解散寸前になった。要するにごみ問題は稲葉問題なのである。

以上

次回打合せ 9月10日 (水) 10:00~12:00 コミュニティサロン・はけ